

## 第35回 札家連体育大会報告

NPO 法人札幌市精神障害者家族連合会(略称 札家連)主催による恒例の体育大会が3月6日(水) 9:30~16:00・札幌市中央体育館にて開催されました。(中央体育館は4月27日より新築の「北ガスアリーナ札幌46」に移転することとなります)

病院、事業所等の通所者がチームを結成し、「ソフトバレーボール」10チーム・「卓球」17チームに、スタッフ・当事者・家族による応援者を含め約400名の参加をみました。



開会式では昨年の優勝チームより「札幌市長杯」の返還を札幌市保健福祉局・障がい保健福祉部・障がい福祉課の松浦恭明課長に受けて頂きました。大会長の菅原悦子札家連会長から「この体育館でのプレーは最後となります。今日一日を楽しく過ごしましょう」、松浦課長からは「この体育館は自分もよく利用していました。年期も経ってきましたが、ここで長く大会を運営し続けてこられた札家連とボランティアの方々に敬意を表します」とのご挨拶を頂きました。



試合開始前にラジオ体操で全身をほぐしましたが、切れのある選手の動きに日ごろからの練習の積み重ねを感じました。



ソフトバレーボールでは各チームとも相手のコートに入れるのも難しいサーブを着実に決めており、サーブ練習に力を入れているのだと感じました。中には天井近くまで高くサーブを上げて落差の威力を出す選手もいました。高く上がってきたボールに3人がお見合いをして真ん中にポトンと落ちたり、必死にボールをつなぎ、長いラリーになったり様々でした。「ファイト」の文字を布に縫い付けた手製の応援旗を大きく振りながら、声を出し合って応援しているチームがありました。



卓球ではサーブの時、球を手のひらに乗せ、垂直に上げてから打つルールを徹底するようにしました。しっかりできている選手もいれば、まだあいまいな選手もいましたが、今年から精神障がい者も卓球種目で初めて全国大会への道が開かれ、大きな大会を目指す選手にとっては必須なものとなります。左手だけでプレーして決勝戦まで進んでいた選手もいました。耳にイヤホンを着け、応援のペナントを両手に広げ、精いっぱいの声で声援し続けている女性がいました。北海学園大学卓球部のボランティア学生で4年間協力し続けてくれた学生が最後

となるので、後輩たちに促され、決勝戦の審判をしてもらいました。スポーツに親しむことが当事者の体力向上や友達を増やす大きなきっかけになっていることをまのあたりにした思いです。

朝早くから会場設営、競技の審判、後片付けなどで運営にご協力いただいた札幌スポーツ協会アクティブ24、北海学園大学卓球部、北海道医療大学バレーボール部、北星学園大学、社協ボランティアサークルの皆様、「白い恋人」を寄贈して頂いたISHIYA様に心より感謝申し上げます。





### 札幌連体育大会卓球の部 35 回を振り返って

中江病院デイケア 田辺 恒夫さん

私は 58 歳から札幌連体育大会卓球の部に参加しております。一回戦で負けたことも優勝したことも経験しています。20 回大会に参加しておりますが、卓球と知り合って、体カアップ、ストレス解消になり思い出の大会になります。

私は、大会よりも毎年 2 月の練習の間が一番大切だと思っています。選手、スタッフとともに練習方法を考えながらチームワーク、協力性、また思いやりの気持ちを養えるのです。

私事ですが、大会 7 年目にして仕事もできるようになり、12 年間、健康な人と仕事ことができました。卓球大会に参加した当デイケアでも相当数、職場復帰を果たした人がいると聞いています。これから、この大会を通じて職場復帰する人が多く出ることを望んでいます。最後になりましたが、札幌連の関係者、ボランティア、デイケアスタッフに感謝をしまして、お礼の言葉とします。

